

尾瀬のミズバショウの富栄養化



平成17年11月8日、ウガンダ共和国で開催された「第9回ラムサール条約締約国会議」において、尾瀬(福島・群馬・新潟)が国際的に重要な湿地を保全するラムサール条約の新たな登録湿地として認められた。

- 尾瀬の湿原は栄養源に乏しいため、それに耐えるコケ類などが生育し、独特な植生を形作っている。しかし、毎年30万人を超えるハイカーが入山し、さまざまな食品を持ち込み、排泄物を湿原に残す。湿原の栄養源が過剰になるのは当然のことなのである。
- 宇都宮大学の谷本丈夫教授らは2005年の日本生態学会で、木道に近いミズバショウほど葉も花も大きくなることを突き止めて報告している。原因の一つとして、木道近くの富栄養化を挙げている。

東京：熱帯夜の増加



- 気象庁は、過去100年間の観測結果をもとに地球温暖化や環境変化の見通しなどをまとめた「異常気象レポート2005」を2005年の10月28日に発表した。世界全体の気温が100年で約0.74℃、日本では約1.06℃の割合で上昇し、世界全体で異常高温が増加していることなどを予測している。
- 首都大学東京の三上岳彦教授は、東京都心の熱帯夜は数年以内に年間50日を超えると推定している。100年から80年前は5日程度だった熱帯夜が、1950年から1970年代には10日～20日に増加し、1980年から200年代には30日～40日に増加している。